

1

## 原稿(ポジ)の作り方

**手描き** トレーシングペーパーにマスキングインク、マスキングペンを用い絵や文字を描きます。濃くむらのない様に描くのがコツです。薄いところがあれば加筆、修正して下さい。市販のオペークマーカー、第二原図用紙、透明フィルムの使用も可。

**ポジフィルム** 原稿としては最高です。画材店、写真屋、印刷屋さん等で作成します。

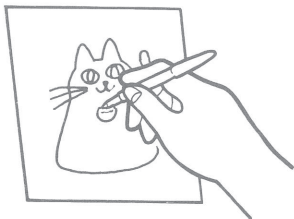
**インスタントレタリング** 文字図案は光を通しませんから、良い原稿です。

**ゼロックス** コピーしたもので原稿として使用出来ます。但し普通のコピー用紙は厚く、光が通り難い上にトナーのむらがありますから、良い原稿とはいえません。コピー用紙の場合は2分間露光して下さい。

**その他** 透明な或いは紫外線を通す原紙(フィルム)上に遮光性のものを乗せたものなら何でも原稿として使用出来ます。自由に工夫して下さい。

多色刷りの場合は原則として色毎の原稿を作して下さい。(版にマスキングをして刷り分ける方法もあります)。

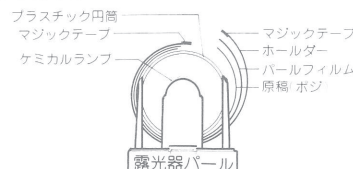
原稿のサイズは型枠の内寸より小さくスキージの長さより幅せまく描く必要があります。



2

## 露光焼付け

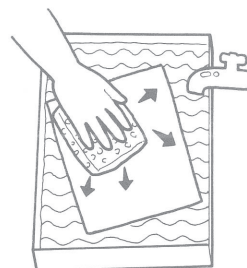
ポジが出来たら露光器「パール」を用いて焼付けます。ホルダーは露光器の円筒にすぐに巻きつけられる様に円筒の下にひろげて置いて下さい。原稿は書いた面をパールフィルムと重ね合せ、ホルダーの上にセットしホルダーといっしょに円筒に巻きつけ、マジックテープでしっかり固定し圧着します。このとき位置がずれないように注意し、出来るだけしっかりと締めつけて下さい。(下図参照) スイッチを入れ50秒~60秒露光焼付を行います。普通の室内光のもとでの作業は特別急いでやる必要はありませんが、太陽光線の直射は絶対に避けて下さい。



3

## 水洗・現像

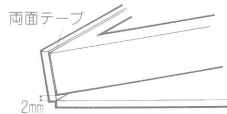
作業に先立ってあらかじめ適当な容器(バット)に少し水を張ったものを用意しておきましょう。流し、洗面所等でやる場合はその必要はありません。露光が終わったらすぐに水に浸し、スポンジでうらおもてをよくこすって、洗い流して下さい。洗い残しのない様注意し細いところは丹念に洗って下さい。よく乾かしてから枠に張りつけます。すぐに水洗いしない時は光の当たらないところに保管しておいて下さい。



5

## 印刷

**版の点検** 印刷に先立って版を点検しましょう。ピンホールその他目止めの必要な箇所があればパール補修液で補修して下さい。版の角にそって補修液を塗っておくと両面テープとフィルムの中に印刷インクの入るのを防ぐことが出来ます。

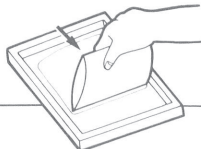


**印刷準備と印刷** セット内の蝶板(ヒンジ)付き刷り台に、両面テープを貼りつけ型枠を取り付けて下さい。刷り台は動かない様に両面テープで机に貼りつけて下さい。ガムテープや両面テープを使って印刷物の位置の「けんとう」を作して下さい。位置決めが出来たら版の端にインク(パールカラー黒)をおきスキージで手前に引きます。枚数の少い時やフロシキの様に広いものの中心に印刷したい時は版をそのまま印刷物の上に置いて印刷して下さい。

**版の後始末** 版を洗う時は版上の余分のインクはパレットナイフで取り除き古新聞紙の上に版を置きボロ布に溶剤を含ませて良く拭き取って下さい。溶剤は、水性インクの時は水、油性インクの時は必ずそのインクの専用溶剤を用いて拭き取って下さい。尚ラッカーシンナーは使用しないで下さい。

セット内のパールカラーは水性、布紙用です。6色を混ぜ合わせ好みの色に調色することが出来ます。色をうすめたい時は別売りのパールピークル(展色材)をご使用下さい。印刷物によってインクを変える必要がある場合は、市販の油性系等のインクをお買求めご使用下さい。

**応用** 多色刷をしたい場合は明るい色(黄や白、その他淡彩色)を先に塗り順に暗い色を刷り重ねて下さい。



4

## 型枠張り付け

両面テープを型枠の中側の方にそって四面に貼りつけます。版の張り付けは下記の順に従って下さい。離型紙は貼る面毎に順にはがして下さい。

- 1 よく乾かしたパールフィルム版を枠の上面に左右にピンと引っ張って貼りつけて下さい。
- 2 左側面を上下にまっすぐにピンと引っ張りながら貼って下さい。
- 3 次に右面ですが上面に位置を変え右手で少し浮かして右方にピンと引っ張って下さい。そのまま左手で左側より順に右方へ外側にも引っ張りながら押え貼りつけて下さい。
- 4 最後の面も位置を上面にもって来て、両手の親指と人差し指を使って外側へ引っ張りながら押えて貼りつけて下さい。これでピンと張った板が出来上がった筈です。タルミがあれば修正して下さい。余分なフィルムは切り離しマスキングテープ等で補強するとよいでしょう。

